

よえもん

論語から学ぼう

(記念館の玄関前に掲示しています)



《 第66号 》 (2019年度)

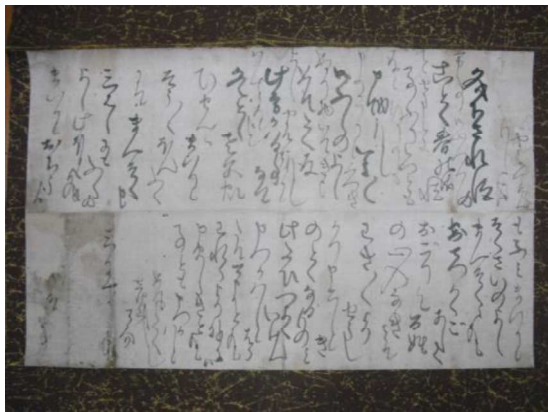
小企画展より～
妹美津への手紙

シリーズ
よえもん



熊沢蕃山には2人の弟と3人の妹がいました。4歳年下の弟の泉仲愛(八右衛門)は、正保元年(1644年)22歳のときに藤樹先生の門人になりました。慶安3年(1650年)藤樹先生の長男の宜伯(太右衛門)とともに、岡山藩主の池田光政に招かれ、学校奉行となり閑谷学校の設立や経営に力を注ぎました。

3番目の妹の美津は、東万木(安曇川町青柳)に住む藤樹先生の門人で朽木藩士・岡田八郎衛門仲実のところに嫁ぎ、生まれて間もない藤樹先生の3男の弥三郎(季重)を育てました。美津は万治4年(1661年)3月、32歳で亡くなり、お墓は青柳の浄土寺にあります。この蕃山が書いた手紙は、妹の美津に送られたものです。



熊沢蕃山書簡(美津への手紙)



美津のお墓(浄土寺)

われ、かつて
終日食らわず、
終夜寝ねず、
以て思う、益なし。
学ぶに如かざるなり。

「論語」衛霊公第十五

書

淵田瑞穂さん

「私は、若い時、一日中食べることを忘れ、一晩中眠ることも忘れて考え続けたことがあった。しかし、なんの得るところもなかった。やはり優れた本や人から学ぶことにこしたことはない。」という意味です。

この章は、孔子が学ぶことは貴いことであるということをおしえるために語られた言葉であると言われています。

人間は、一人で考えられることには限界があります。本や人の言動などから情報を得て、広い視野で考え行動していくことが求められていると言えます。



* 記念館だより *



「佐藤一斎～藤樹書院を訪ねて200年～」の展示が始まります!

今年度もあと二か月になりました。今年の冬は例年より暖かい日が続いています。中江藤樹記念館では3月5日から新しい展示が始まります。今回の展示のテーマは、中江藤樹の教えの影響を大きく受けた儒学者で、江戸時代の後期に活躍した「佐藤一斎」です。

佐藤一斎の生涯や活躍がわかるよう、当時を偲ぶ遺墨や肖像画、写真などを展示しています。中学生以下の入館者は無料です。多くの方のご来館をお待ちしています。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330

